

文化財の観光資源としての開花

文化庁

観光立国の実現に向けた文化行政の展開について

現在

文化芸術活動・文化財
についての振興や保護

- ・古いものを「そのまま」保存するのみ
- ・訪日外国人向けのエンターテインメントの不足
- ・日本文化の戦略的な発信の不足

観光立国実現に向けた
観光基盤の整備・強化

これから

- (1) 日本文化のPRがもっと必要
- (2) 文化芸術活動・文化財を
観光で目を引くよう磨き上げ
が必要。

“文化”を最大限活用して、観光立国の実現を目指す

①文化財の先進的・高次元な多言語解説整備の推進

日光東照宮における多言語解説整備

- 全世界から多数の観光客が集まる日光東照宮の主な文化財について、平成29年度中にモデル的に多言語解説整備を実施
- 「文化財に関する国際発信力強化の方策について」(H29.9)等を踏まえ、日本語解説を単に直訳するのではなく、外国人にとって分かりやすい魅力的な解説文となるよう、表現を工夫して新たに整備。(解説板23基)

～新たに整備した解説板を読む外国人観光客～



眠猫



重要文化財
奥社宝塔（御墓所）

今後の取組予定

- 「文化財多言語解説整備事業」(H30年度：5億円)において先進的・高次元な文化財の多言語解説を整備する事業を平成30年度より開始
- 分かりやすい多言語解説整備推進委員会の運営など、事業の全工程にわたり観光庁と連携して実施

～AR・VR等の先端技術の活用～



日光東照宮の他、二荒山神社や輪王寺等、日光地域全体の面的整備を観光庁・環境省と連携して実施
今後2020年度までに文化財中核観光拠点200箇所を中心に整備

②文化財を活用した「Living History」(生きた歴史体感プログラム)の創出

「Living History」とは？

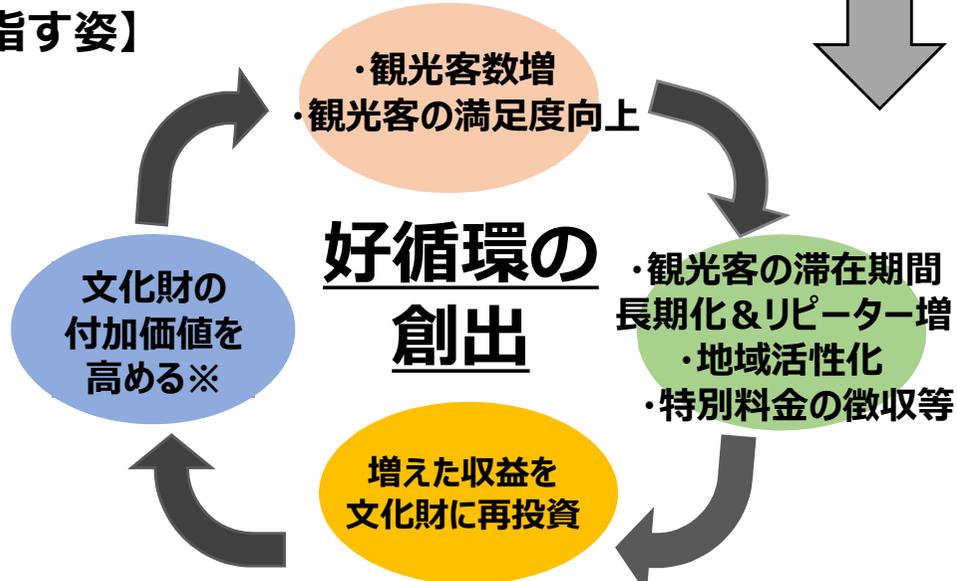
- ① 文化財の付加価値を高める…観光客が体感・体験できるよう、歴史的な出来事や当時の生活を再現
- ② 好循環の創出…文化財を核として賑わいを創出し、増えた収益を文化財の修理・整備や新たな企画に再投資

観光資源としての
更なる磨き上げ

【現状・課題】

- ・必ずしも観光客にとって往時が分かりやすい形で公開されていない
- ・民間事業者と連携しつつ、文化財の所有者・管理団体等が自律的に文化財の修理・整備を行うモデル作りが必要

【目指す姿】



※ 文化財建造物や史跡等において、往時を再現した復元行事・歴史体験行事の実施、当時の調度品・衣装等の展示

今後の取組予定

- 先行的な取組事例の収集
自治体における先行的な事例の収集・周知
- 文化財保護法の改正 ※今国会で審議中
地域における文化財の総合的な保存・活用を制度的にも担保

(イメージ1) 三重県明和町における取組

～「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」における歴史体験～

十二単の着付け体験 (約5,500円)

「斎王まつり」(6月上旬)



斎王の食事を再現した「斎王の宝箱」(1,600円)

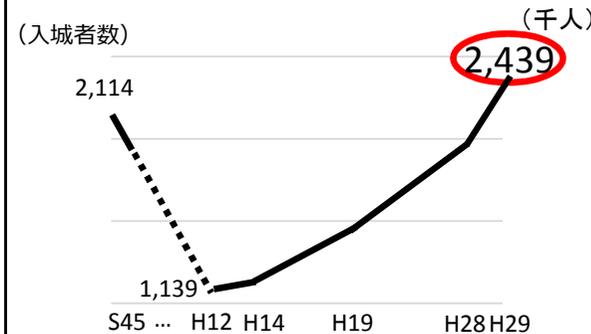


(イメージ2) 二条城における取組

平成28年度、第3代将軍徳川家光による後水尾天皇への饗応を再現

入城者数：平成29年度、47年ぶりに過去最高の入城者数を更新

収益：平成24年度決算 約9億円 → 平成29年度見込 約14億円



(H31年度以降～)

事例の横展開を目指し、新たに取り組む自治体等に対する支援スキームの創設

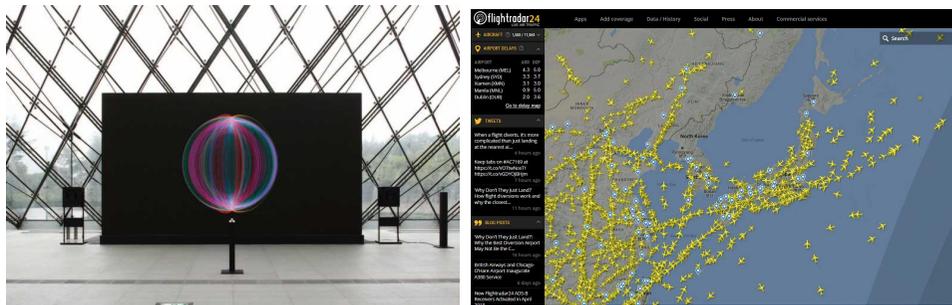
③メディア芸術展示による空港演出／都市でのナイトタイム・エンターテインメント

日本だから創造できる新しい文化芸術の発信 – 世界最先端のメディア芸術を体感できる都市へ –

- **メディア芸術の分野で世界的に活躍する日本のクリエイターが、空港等の公共空間や都市のエンターテインメントを演出**
 - ▶ 観光の要となる空港等で、**新しい技術を用いた体験型の作品制作展示、施設内の空間演出**を展開
 - ▶ 空港から向かう都市では、**世界最先端のメディア芸術の創造発信、ナイトタイム・エンターテインメント**等で滞在満足度を向上

【空港等の公共空間での展示・空間演出】

日本に降り立った瞬間から楽しめる、空港ならではの新しいメディア芸術作品の展示
(例) 航空機フライトデータを使ったメディアアート作品 – 空の動きを体感する –



【参考】さまざまなデータを使った視覚化・芸術表現で知られるライゾマティクス・真鍋大度が坂本龍一と制作した作品『センシング・ストリームズ』。人間が知覚できない電磁波を可視化・可聴化する作品。2014年・文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞。

【参考】航空機のフライト・データを視覚化するウェブサイト
<https://www.flightradar24.com/>
フライトデータを活用して、空の動きを体感できるようなメディアアート作品。



【参考】歩くことでグラフィックが反応する体験型作品。制作したクリエイター集団・チームラボは新しい技術を用いた空間演出で国際的に活躍。

(例) 体験型の映像による空間演出 – 施設案内、歩くことを楽しむ通路案内 –

今後の取組予定

日本の都市を、世界最先端のメディア芸術を体感できる空間に

世界初のメディア芸術を創造・発信する劇場公演やナイトタイムエンターテインメントを通して、日本の都市の魅力と滞在満足度の向上やインバウンド増加に寄与。

【魅力的なナイトタイム・エンターテインメントの創出】 新しい文化芸術を都市で夜に楽しむ



【参考】音楽とアートのフェスティバル「ソナー」(スペイン)



【参考】新しい表現を世界に示す劇場公演。ライゾマティクス・真鍋大度らが制作したパフォーマンス『フォスフェア』。

④先端技術(VRや高精細画像・複製)を駆使した日本文化の魅力発信

先端技術を駆使したコンテンツの提供 (現在の事例)



【VR】凸版印刷株式会社×東京国立博物館：
2017年『土偶』



【高精細複製品】キャノン株式会社：国宝「松林図屏風」
(親と子のギャラリー びょうぶとあそぶ@東京国立博物館)



【高精細画像】成田国際空港株式会社×3M
ジャパン株式会社×東京国立博物館：
@成田空港：国宝『洛中洛外図屏風(舟木本)』

【陶板複製】大塚オーミ陶業株式会社
長岡市出土 火焰土器
原寸大複製



【クローン文化財】東京藝術大学：
法隆寺釈迦三尊像

今後の取組予定

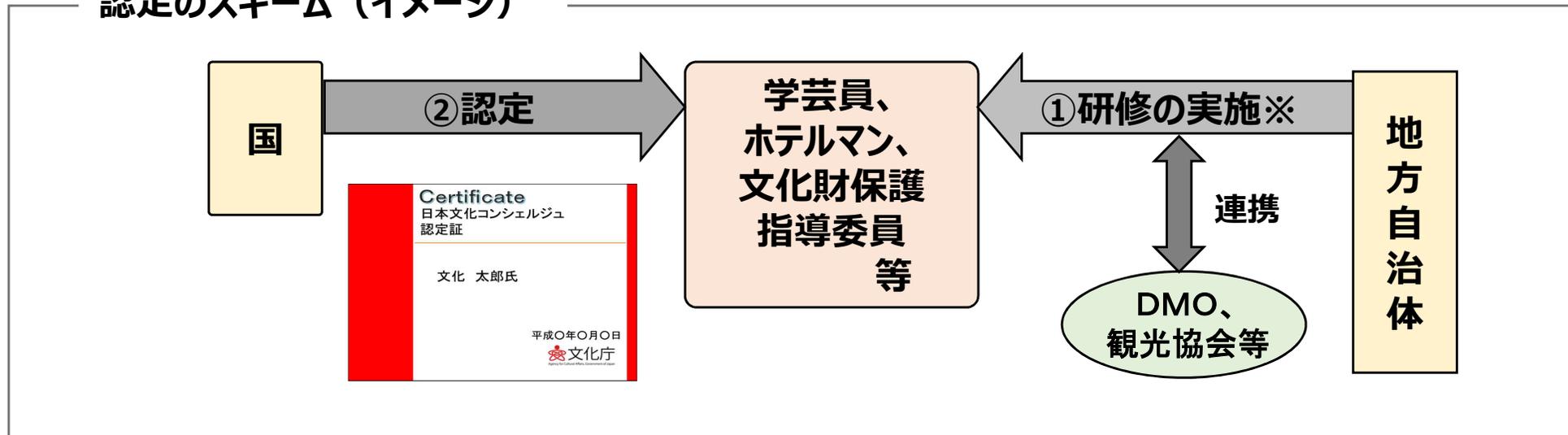
- ・先端技術 (VR、MR、高精細画像・複製、8Kなど) を駆使して、日本の歴史・芸術・伝統的な文化財や風景などをアピール (※文化財などの所在地、美術館・博物館のほか観光庁・JNTO海外プロモーションや空港・駅などでも活用)
- ・「文化遺産オンライン」、マンガなどメディア芸術関係の多言語化・映像化によるコンテンツ発信

⑤日本文化コンシェルジュ(仮称)の創設

「日本文化コンシェルジュ」(仮称)の認定

- 文化財に関する専門的知識は持っていても、外国人観光客の様々な文化的ニーズに対応しつつ、文化財の魅力等について積極的に発信することのできる人材は限られており、戦略的な育成を行う観点から「日本文化コンシェルジュ」(仮称)として**認定するスキームを構築**
- **観光庁と連携し、外国人目線で日本の伝統文化を分かりやすく解説したり、種々の要望にも的確に対応したりするための研修プログラムを開発**

認定のスキーム (イメージ)



※観光庁と連携し、研修プログラムの開発

デスティネーションマーケティング

STPマーケティングのステップ

- マーケティング機会の分析
- S セグメンテーション
- T ターゲティング
- P ポジショニングの設定
- マーケティングプログラムの立案
- 実行とコントロール

「明日の日本を支える観光ビジョン」 (同構想会議、平成28年3月30日策定)

- ただし、文化財の保存が軽視されているわけではない
- 文化財の保存が基本、ただし、保存だけが自己目的化するのはいくつか、という発想
- 文化財修理の加速+観光資源としての磨き上げ+周辺環境整備
- 文化財の意味を伝えること+文化財にふさわしい周辺環境をつくりあげること
- さらに、総体としての観光地全体の魅力向上を目指す

⑥世界文化遺産や日本遺産等を中核とした観光拠点の充実

現状・課題

- インバウンド増を踏まえ、観光拠点の整備が不可欠。
- 我が国が誇る世界文化遺産や日本遺産等を中核に、観光資源の集積・さらなる磨き上げを行うことが重要。

受け皿体制の整備例

情報発信拠点(ビジターセンター)の整備



【島根県津和野町】

伝統的な家屋を宿泊施設に改修



【宮崎県日南市】

文化財を含めて景観を一体的に刷新



【岐阜県高山市(往時の土蔵を復元)】

今後の取組予定(目指すべき方向性)

- 世界文化遺産や日本遺産において、地域全体を一体的に整備することにより、ブランド力の向上と観光拠点としてのさらなる磨き上げを実施。
- 訪日外国人が日本の地域に受け継がれた文化を理解するため、世界文化遺産や日本遺産等の域内における文化財を活用。